

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円は堅調に推移か

[3月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月6日～3月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	136.05	137.91(8)	135.37(6)	136.54	+0.67
ユーロ・ドル	1.0632	1.0694(6)	1.0525(8)	1.0594	-0.0041

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,143.97	+216.50	日本10年債利回り	0.395	-0.111
ダウ平均株価	32,254.86	-1136.11	米10年債利回り	3.903	-0.049

<来週の主要経済統計等>

- 14日 英2月雇用統計  
スイス2月生産者・輸入価格  
米2月消費者物価指数  
カナダ1月製造業出荷
- 15日 NZ第4四半期経常収支  
中国2月小売売上高、中国2月鉱工業生産指数  
ユーロ圏1月鉱工業生産指数  
米2月小売売上高、米3月NY連銀製造業景気指数  
米2月生産者物価指数  
米1月対米証券投資
- 16日 NZ第4四半期GDP  
日本2月貿易収支、日本1月機械受注高  
豪2月雇用統計  
日本1月鉱工業生産指数  
カナダ1月卸売上高  
米新規失業保険申請件数、米2月輸入価格指数  
米3月フィラデルフィア連銀景況指数、米2月住宅着工・許可件数  
欧州中央銀行(ECB)政策金利、ラガルド総裁記者会見
- 17日 ユーロ圏2月消費者物価指数確報値  
カナダ2月鉱工業製品価格  
米2月鉱工業生産・設備稼働率  
米2月景気先行指数  
米3月シガン大学消費者信頼感指数速報値  
経済協力開発機構(OECD)経済見通し発表

【前回のレビュー】ドル円は高値圏で足踏みしているものの、底堅い動きを続けており、この流れが継続することとなりそうだ。FRBによる金融引き締め長期化への思惑もあり、底固く推移するとみられ、もみ合い一巡後に一段と上値を追う展開が見込まれるとした。

【パウエル議長の議会証言で利上げ加速を意識】

7日と8日の米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の議会証言がタカ派的な内容となり、今後の利上げペースの加速や利上げ長期化への警戒感につながった。米長期金利は上昇するとともにドル買いの動きに傾いた。

パウエル議長は、「必要であれば利上げペースを加速する用意がある」「利上げの最終到達点(ターミナルレート)は従来の想定より高くなる可能性が高い」「物価安定の

責務には程遠い」などと述べた。また、パウエル議長は「最新の経済データは予想を上回る強さで、政策金利の到達点が従来予想より高くなる可能性がある」「インフレ圧力は前回の会合時点での予想よりも強まっている」との認識を示した。

3月21～22日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅を拡大する可能性を示唆したことで、3月のFOMCでの0.50%の利上げ確率が従来の30%前後から一時80%前後まで上昇した。ただ、その後は61%前後に低下している。

昨年11月のFOMCまでの4回連続で0.75%の利上げを行った後、昨年12月には0.50%の利上げ、今年2月には0.25%の利上げを決定して、利上げペースを減速してきた。インフレ率の伸び率の鈍化などが背景にある。

ただ、前回（1月31日～2月1日）の米連邦公開市場委員会（FOMC）の後、2月3日の米1月雇用統計、14日の米1月消費者物価指数、15日の米1月小売売上高、16日の米1月生産者物価指数が予想から上振れしたことで、金融引き締め長期化への警戒感が高まった。

そうした状況で行われたパウエル議長の議会証言がタカ派的な内容だったことで、米10年債利回りは7日と8日に一時4.0%台に乗せ、ドル円は一時137.90台まで上昇した。ただ、その後は円安進行が一服した。

10日に日銀金融政策決定会合の結果が発表された。大方の市場予想の通り、金融政策は現状維持となった。市場の一部では、イールドカーブコントロール（YCC）の修正に動くとの見方から、事前に円買いの動きに傾き、ドル円は135円台後半まで円高に振れていた。金融政策の現状維持が発表されると、137円近くまで円安が進んだ。

今回が最後の会合となる黒田総裁は、記者会見で「物価が持続的に下落する意味でのデフレではない」「2%物価目標の持続・安定的な実現に至らなかったこと残念」「今後も政府と連携し、時間かかっても物価目標実現は可能」「新総裁がなにをするのか、今私が申し上げるのは僭越」「大規模緩和は成功だった」などと述べた。特に目新しい内容はなく、市場への影響は限定的だった。

3月13日の週は14日に米2月消費者物価指数、15日に米2月小売売上高、米2月生産者物価指数の発表がある。2月はこれらの指標の強さが米国経済の強さを再確認させたことで、利上げペースの加速や長期化への警戒感につながった。これらの指標が引き続き堅調な内容となるのか、前月に予想を上回った反動で下振れするのか、といった点が注目される。

F RBによる利上げペースの加速や金融引き締め長期化への思惑もあり、ドルは底堅い展開が続くそうだが。一方で、日銀は金融政策を据え置いたことで当面はドル主導でドル円は底堅い推移となりそうだが。4月に新総裁に就任する植田和男元審議委員が緩和的な金融政策が適切との認識を示しており、4月27～28日の最初の日銀金融政策決定会合までは大きく円買いに傾きにくいとみられる。こうした中、ドル円は堅調な推移を続けて、米経済指標次第では140円乗せを試す可能性が出てくる。ドル円の目先の予想レンジは、134.50～140.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、14日に米2月消費者物価指数、15日に米2月小売売上高、米3月NY連銀製造業景気指数、米2月生産者物価指数、米1月対米証券投資、16日に日本2月貿易収支、日本1月機械受注高、米新規失業保険申請件数、米2月輸入価格指数、米3月フィラデルフィア連銀景況指数、米2月住宅着工・許可件数、17日に米2月鉱工業生産・設備稼働率、米2月景気先行指数、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは方向感の出にくい展開か】

ユーロ圏やドイツなどでのインフレ率の高止まりを背景に欧州中央銀行（ECB）では利上げを継続するとの見方が広がっている。3月16日の欧州中央銀行（ECB）理事会では0.50%の利上げが実施される見通しとなっている。

5月以降の理事会でも利上げを継続するとの見方が根強いものの、当局者によって見

解に相違がある。こうした中、16日の理事会での声明や理事会後のラガルド総裁の記者会見が注目される。ECBの利上げ継続姿勢が示されるとユーロの下支え要因となりそうだ。

ただ、FRBが利上げペースを加速するとみられており、ドルも強い動きが見込まれている。このため、ユーロもドルも堅調な動きとなる中、ユーロドルはもみ合いで方向感が出にくい展開とみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0400～1.0750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に英2月雇用統計、スイス2月生産者・輸入価格、米2月消費者物価指数、カナダ1月製造業出荷、15日にNZ第4四半期経常収支、中国2月小売売上高、中国2月鉱工業生産指数、ユーロ圏1月鉱工業生産指数、16日にNZ第4四半期GDP、豪2月雇用統計、カナダ1月卸売上高、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルド総裁記者会見、17日にユーロ圏2月消費者物価指数確報値、カナダ2月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。